

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店 [酒] (店長)	来客数の動き	・観光客も増えてきている。
	◎	その他専門店 [陶器] (製造)	販売量の動き	・卸先からの注文が増えている。
	○	商店街 (代表者)	来客数の動き	・現在やや良くなっている方向にあるが、これは少し偏りが出ている。飲食業は多少は良くなりつつあるが、集客も一般の販売の方が大変である。まだまだ危機感が出ている。今後ゴールデンウィークも近づくが、それによって少し良くなるという期待がある。
	○	百貨店 (経営担当)	販売量の動き	・ホワイトデーや合格祝いなどのギフト需要にて販売量が増加傾向となっている。
	○	コンビニ (経営者)	販売量の動き	・来客数、販売量が前年より増加している。
	○	家電量販店 (営業担当)	来客数の動き	・来客数が前年比で100%以上に回復している。
	○	観光型ホテル (代表取締役)	来客数の動き	・宿泊に関しては前年あった全国旅行支援が今年はないので売上は前年とほぼ同じである。飲食、宴会については前年よりも来客数も売上も増えている。ただし、宿泊、飲食、宴会とも新型コロナウイルス感染症発生前の90%程度であり、十分な回復にはなっていない。
	○	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・販売数、来客数共に前年を上回ることができており、市場に活気が出ている。
	□	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・外国客は時々訪れるものの、国内客は少なくなっている。やはり物価高騰や円安の影響とみている。
	□	乗用車販売店 (経理担当)	来客数の動き	・客の動向に大きな変化はない。
	□	旅行代理店 (マネージャー)	販売量の動き	・ゴールデンウィークなのに旅行需要がかなり限定的である。値上げラッシュは続かなか、財布のひもは相当に固い。
	□	住宅販売会社 (代表取締役)	来客数の動き	・土地取得費や建築単価の高騰により建築相談件数が減少傾向にある。
	□	住宅販売会社 (役員)	競争相手の様子	・建築費の上昇が続いている状況下で、新築住宅や分譲マンションの供給が他業者も含め慎重姿勢になっている。
	▲	スーパー (企画担当)	来客数の動き	・今月の来客数をみると、前年を下回っており、3か月前と比べても落ち込んでいる。今月は前年と比べて雨の日が多く、清明祭需要が伸び悩んでいる。
	▲	コンビニ (副店長)	販売量の動き	・3か月前と比べ販売量が落ち込み、減少傾向である。悪天候が続く客足にも少なからず影響はあると考える。
	▲	コンビニ (経営企画担当)	来客数の動き	・悪天候が続いているせいか、来客数がマイナスの影響を大きく受けている。
▲	その他飲食店 [バー] (経営者)	来客数の動き	・例年だと歓迎会などの流れで団体客がいるが、今年はそのような団体客がほぼない。県外、国外の観光客である程度売上はカバーできているが、地元の方の来客数は減っている。	
▲	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・ホテルの1月の販売室数が前年比11%減少なのに対し、4月は前年比13%減少となり、マイナス幅が大きくなっている。	
×	一般レストラン (代表者)	来客数の動き	・来客数が大分減少している。	
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・2023年度の国内客の来県数が新型コロナウイルス感染症発生前を超えるなど今年度も好調に推移している。飲食店を含めた観光関連の需要の増加による影響が続いている。
	○	会計事務所 (所長)	それ以外	・コロナ禍が落ち着いた後の本格的なゴールデンウィークとなるため、観光関係を中心に景気回復が見込める。

	□	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼は3か月前と比較し、公共、民間共に横ばいで受注も大きな変化はない。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数については、前年同月と比べ横ばいである。中小企業において、求人票に記載される賃金が上がってきている。
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・前月に引き続き、2025年卒向けの求人を中心に、多くの求人を頂いている。学内説明会の依頼も多く、複数の企業より2回目に説明会の依頼が入ってきている状況である。
	□	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・直近2～3か月において求人数に大きな変化はなく、ほぼ横ばい、あるいはやや減少傾向となっている。夏に向けてもこの状況が続くと考えている。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・物価高が続くなか、労働賃金の引上げによって景気回復を一時的に期待したが、円安情報が顕著に聞こえるようになり、期待感がなくなっている。実際、自身の消費行動を控えるようになっている。
	▲	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求人広告に対しての求職者数の反応が鈍く、人手不足感が続いている。
	×	—	—	—